

第7回みまたん霧島パノラマまらそん

フォトコンテスト 入賞作品

《 審査にあたって 》

今回のテーマ『みまたん霧島パノラマまらそんの魅力が伝わる写真』ということで、
様々なシーンが切り取られ、大会の魅力が詰まった作品をいただきました。
このような写真コンテストの審査をするときに、私が評価の基準にしていることは、
テーマ性とオリジナリティです。写真1枚の完成度や、技術力も大切なことですが、
『自分がどういう写真を撮りたいのか、どう見せたいのか』という事と、
『テーマ性がはっきりしている写真か』この2つを重要視しながら評価いたしました。
作品は一瞬の場면을切り取った“記録”かもしれませんが、
「どんな写真を撮ろう、誰を撮ろう」など
準備段階から、この大会に携わることで、思い出の1ページになったことと思います。
私自身も、この審査を通して、
みまたん霧島パノラマまらそん大会の魅力や、三股町の可能性を感じ、
写真が持つ“伝える力”についてあらためて考える時間になりました。
最後に、素晴らしい作品を、本当にありがとうございました。

第7回みまたん霧島パノラマまらそん
フォトコンテスト審査員

伊藤郁美



【最優秀賞】



(作品名) 完走、感無量。

(応募者名) 中村 豪：三股町

【講評】

非常に表現性が高い。

視点や構図、バランス、ピント、シャッターのタイミングがとても良い。

テーマ性にも沿っていて、何を伝えたいかが分かる。

被写体からは達成感が伝わり、大会のリアルな様子を感じ取れる。

色味も良い。

【優秀賞】



(作品名) 親子でゴールを目指して
(応募者名) 中島靖彰：三股町

【講評】

テーマ性がしっかり伝わる。

「マラソン楽しい」が伝わる表現力と、家族3人で楽しく走る、微笑ましい様子が伝わる。

捉え所がとても良い。

カメラアングルがとても良い。

右端の人物の写り込みがなければもっと被写体が引き立つ。

【優秀賞】



(作品名) ベテランパワー

(応募者名) 上野直孝：都城市

【講評】

表現性が高い。流し撮りしたことで、躍動感が出てとても良い。

被写体から、エネルギーに満ちた様子が伝わる。

足元全体が全て写り込んでいたら流し撮りの効果が高まり、もっと良くなる。

【優良賞】



(作品名) みんなの笑顔でIup

(応募者名) 木村夏樹：三股町

【講評】

シャッターのタイミングがとても良い。沿道での応援者もしっかり写っていて、被写体（ランナー）の存在感が増している。レンズから被写体までの距離感も良い。もう少し露出を上げて撮影すればもっと良くなる。

【優良賞】



(作品名) 走る？飛ぶ？

(応募者名) 中村史枝：都城市

【講評】

オリジナリティが溢れている。被写体の表情から、大会の楽しさやユーモア感が現れていて、あたたかみのある三股町らしさも伝わる。

カメラを低い位置から撮影するなど画角にもう少し工夫があればもっと良くなる。

【特別賞】



(作品名)

頑張りどころ

(応募者名)

迫田次郎：三股町

【講評】

表現力が高い。

被写体それぞれの、心の動きが捉えられている。

何を見せたいかが、はっきりと分かる。

被写体をもう少し、絞り込んで撮影すればさらに良くなる。

【特別賞】



(作品名)

楽しすぎるエイドをありがとう

(応募者名)

平下 太：都城市

【講評】

写真から大会の賑やかさが伝わる。

仮装で自撮りを楽しむ人、ノリノリな学生ボランティアさん、真剣に走っている人、様々な場面が1枚の写真におさめられています。

放射線構図で、奥行きが出て良い。

後ろにいる、学生ボランティアさんがもう少し前にきて、表情が見えればもっと良くなる。

【特別賞】



(作品名)

老若男女、空を突け!!

(応募者名)

持留沙百合：鹿児島市

【講評】

オリジナリティがある。

大会を盛り上げたことが表情から伝わる。

実際に音が聞こえてきそうな、臨場感がある。

もっと被写体に近づいて撮影し、後方の建造物などがなるべく入らないよう撮影すれば被写体が引き立ち、迫力が増す。

フォトコンテスト審査員

伊藤郁美 プロフィール

三股町餅原出身、都城市山田町在住。

39 歳

【経歴】

20 歳 スタジオゼロのカメラマンアシスタントになる。
グランドパティオ都城専属カメラマン。

27 歳～ スタジオ退社後、フォトグラファーとして独立。
鹿児島、都城を中心にブライダル撮影、学校アルバム撮影、
家族写真撮影などを専門とし、婚礼アルバムなどのデザイン制作も担う。

33 歳～ 三股町を中心にホールイベント、野外イベントなどの広報用撮影に移行。
三股町と連携をとり、ふるさと祭りの記録撮影、三股町社会福祉協議会が手掛ける
コミュニティデザインラボ掲載用撮影、冊子『オーバーラップ』撮影、
地域おこし協力隊企画『KOKOGANAGATA』の冊子撮影、
デザイン制作などを担う。

38 歳～ 市議、町議、県議用ポスター・リーフレット撮影、
病院、高校などのパンフレット撮影、諸県弁カレンダーの企画・撮影デザイン、
五本松事業関連の広報用撮影などを担う。

得意分野 人物撮影（特に女性、子ども）が得意。



クロスアップ
まちを支える人たち (122) 餅原出身 伊藤郁美 (39) さん

思いが重なりあうその先に

人のぬくもりが伝わる写真を

「撮影した写真から、どこか懐かしさやぬくもりを感じて、ここに行ってみようかと思ってもらえたら」と微笑む郁美さん。このほど完成した長田地区の人たちの表情や暮らしぶりを記録した写真集で撮影と構成を担当、発刊を記念した写真展も各地区で開催され、多くの反響を呼んでいる。20歳から7年間、写真スタジオに勤め、結婚式場

や学校行事の撮影で技術を学び、独学でアンクルや照明などの感性を磨いてきた。自分がイメージするものを追い求めるあまり、ときには依頼者の求めとずれ。が生じることもある。「大切なのは、一歩引いて全体を俯瞰してみること。摩擦を怖がらず互いに対話を繰り返して、お互い合わせることが、人のぬくもりが伝わる作品につながる」と語る。依頼者の喜ぶ顔を力に変えて、幸せの瞬間を、これからも撮り続ける。

広報みまた
2019.5月号
Mメイト掲載